

ひめじょ通信

発行：第14号（年1回発行）

発行日：2019. 5. 19

広報委員：今村朋子(編集長)・中尾慶子
宇都宮美加・山下玲子

発行部数：500部

発行元：一般社団法人 愛媛助産師会

(一社)愛媛助産師会 会長 井伊貴子

事務局：愛媛県松山市中一萬2-1

愛媛県助産師会立まつやま助産院内

E mail: ehime@himejyo.jp



西日本豪雨災害における活動

昨年の西日本豪雨により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

2018年7月に発生した西日本豪雨災害。愛媛では南予地区を中心に、大きな被害がありました。愛媛助産師会では、南予会員の安否確認、支援物資などの情報発信、その後の母子を支援するイベント等の活動を行うとともに、今の愛媛助産師会のマンパワーでは、災害時にすぐに支援に乗り出せる体制がまだまだ不十分だという課題も見えてきました。また、各県の助産師会や団体から義援金などの支援もいただき、災害時に支えあうことの大切さも感じる一年でした。今回のひめじょ通信では、豪雨災害に関連した南予地区の活動について皆様にお伝えしたいと思います。

目次

* 南予災害支援活動	1~3
* イベント報告	3
* お産場探訪	4~6
* 研修報告	6~7
* ひめじょのお知らせ	8

災害支援 イベント

頑張ろう南予！さんばフェスタ in宇和開催

2018.12.2 場所：愛媛県歴史文化博物館

●さんばフェスタin宇和を開催して

南予地区長 松下千恵(長野産婦人科)

今回、公益財団法人ジョイセフさんの依頼を受け、西日本豪雨災害の復興支援を目的とした「さんばフェスタin宇和」を開催する運びとなりました。

ゲストには「すくすく子育て」の司会もつとめられた、3人の子育てに奮闘するお母さんタレントのくわばたりえさんが来てくださることになりました。しかし、イベントのチラシができたのは11月も中旬で、広報が間に合うかという不安や、私自身がパソコンに不慣れなうえ、イベント開催という役割も初めてで、思うように作業が進まない日々を過ごしました。宇和での開催も、ゲストを招くのも、初めてづくしのことばかりで何の予想もたてない状態でした。そうした中で、東予や中予の助産師会の方や、他団体・一般の方の協力を得たことはとても嬉しく心強いものでした。協力者の中



には子育て中で断水生活を経験された方もあり、不便な生活を送りながらボランティア活動をされていた方もありました。参加された方のボランティア精神にはとても感心させられ、頭の下がる思いでした。

当日は400名近い方の参加をいただいたうえ、宇和での開催を喜び感想や楽しかったという感想をいただくことができました。またスタッフから子供たちやパパ・ママの笑顔が嬉しかった、楽しい時間を過ごせたという感想をいただきました。このイベントが少しでも子育てに頑張っているパパ・ママの癒しになれていたら嬉しく思います。

短い準備期間でご迷惑をおかけしましたが、皆様のご協力のおかげで大きな問題もなくイベントを終了できたことに感謝いたします。本当にありがとうございました。



●くわばたりえさんと松下さん

●トークショー

「Mom meets Mom」

まさか！のかっぱ着姿で登場のくわばたりえさん。子育て中の皆さんを元気づけてくれました。

●来場者のみんなで写真撮影。たくさんの方が来てくれました。



●南予さんばフェスタつづき

●様々な体験コーナーがあり、どこも盛況でした！

●12月ということでチャリティサンタも登場！
こどもたちに絵本のプレゼントがありました。南予豪雨災害に際して
寄付・支援をいただいた団体様

- ・日本助産師会本部 様
- ・神奈川県助産師会 様
- ・兵庫県助産師会 様
- ・(株)ダッドウェイ 様
- ・公益財団法人ジョイセフ 様
ありがとうございました。

母子
相談西日本豪雨災害復興支援
母と子の癒やし交流サロンでの母子相談
はらだ助産院：原田恵美

昨年の豪雨災害支援で、公益財団法人ジョイセフを通して「宇和島市NPO団体お母さんといっしょ」と共に「母と子の癒やし交流の場」で被災されたお母さんの相談にかかわる機会がありました。

実際現場へ行くと、あちこちに流れ込んだ土砂の後や高く積み上げられた家具やゴミの山に豪雨のすさまじさを肌で感じました。9月に入り水道も使えるようになったと聞いていたので生活も落ち着いてきたのかなと思っていましたが、水はカビ臭く子供には使えないといった報道では

分からない苦勞をされていました。そんな中、出産後にすぐに被害に遭われたママ、NICUに赤ちゃんが入院中のママと、出産だけでも不安なのにその上災害に遭われどんなにつらかったらうと胸が苦しくなりました。何も力にはなれませんが、ただお話を聞きました。座談会でお菓子を食べながら笑顔で子供を見守っているママたちの話を聞いていると、はやく普通の生活に戻る日が来るように願うだけでした。



●9/10 吉田喜佐方公民館にて



●9/16 三間公民館にて

支援
活動西日本豪雨災害復興支援 ホワイトリボンラン
2019.3.2 宇和島ガイスタジアム

「WHITE RIBBON RUN」は、世界では1日に840人の女性が妊娠・出産・中絶が原因で命を落としているという現実を知ってもらうため、「走ろう。自分のために。誰かのために。」をスローガンに3月8日国際女性デーに先駆けて行われる大会です。世界中のランナーがホワイトリボンの名のもとにつながり、エントリー費の一部が途上国の女性支援のための寄付金となります。今年は、南予豪雨災害の復興支援も兼ねて、宇和島・ガイスタジアムで開催されました。



ひめじょう
ランナーの皆さま
ナイスRUN！
お疲れさま
でした！

2019



●災害時の対応を振り返って

南予地区長 松下千恵(長野産婦人科)

7月、本当に凄い雨が降り続きました。災害のニュースを耳にするたびに他人事ではないと思いつつ、他人事だったのかもしれませんが。近くでこれだけの災害が起こって、改めて災害の怖さを強く感じました。南予会員の安否確認を依頼され、施設代表に確認を取る方法で行いました。アドレスがわからず確認が取れない方も数名あり、知人の方に確認をしていただきました。一刻も早く安否を確認するためにメールアドレス登録の徹底が必要と感じました。

自宅被害を受けた方はもちろんのこと、直接の被害がなくても水道の使えない不便な生活を送ったお母さん方も多くいました。市の保健師さんが中心となって災害現場を回っていたと聞きましたが、母子の事で助産師会として何か手伝えることがあったのではないかと思います。

今後、早急に「災害時支援マニュアル」の改訂とマニュアルに沿った支援内容の周知を会員に行う必要があるのではないかと思います。

→その後、理事会ではマニュアルの整備をおこない、次年度に向けて検討を急いでおります。

●今年の安否確認訓練報告

今年2月の訓練は、南予豪雨災害の後ということもあり、より確実な安否確認に力を入れました。まず一つは、具体的な安否情報を入力できるようにして、被災の有無や母子支援の必要性などを把握できるように変更しました。もう一つは、施設リーダーを決めて、メンバーの状況把握を確実にし、それでも連絡が取れない方は、事務局から電話連絡で安否を確認しました。

おかげで今年は、**99.5%で、206人**(2月会員数207名)の方の安否確認ができました。今後もひめじょメールのようしくお願いします。
(安全対策委員会・広報委員会)

共催
イベント

「パパママほやほや子育てセミナー」

第1回 2018.9.9 / 第2回 2019.2.24 場所：男女共同参画センター

今年から、助産師学生の「地域活動実習」として、助産師会の様々なボランティア活動への参加がありました。9月のセミナーに参加した学生の感想を掲載します。

私たち助産師学生は、地域の中の親子や夫婦への支援の必要性を学校で学んでいましたが、実際の地域で過ごす家族の姿を知る機会があまりなかったので、今回の参加を、とても楽しみにしていました。

参加されている方たちからは「初めての育児なので、分からないことが多いため不安になることが多い。」という声があり、核家族化が進む中で主に夫婦のみで子育てしている方たちにとっては、専門職に相談できる場があることは育児についての悩みを解決できる最良の機会になると感じました。子育ての講話の後は、ベビーマッサージや絵本、童謡を通して赤ちゃんに顔をすりすりして微笑んでいるパパ、日頃の悩みを相談し合っているママの姿を見て、こうして同じ境遇にいる人たちと過ごし、いろんな家族の在り方を知ることが育児への自信や不安の解消に繋がっていることを感じる事ができました。ご指導いただいた愛媛助産師会の皆さま、本当にありがとうございました。(医療技術大学 助産学専攻科 長谷川南・平田恵梨佳)



●赤ちゃんも楽しそう！

●手形・足型とり頑張ってます。

●ベビーマッサージ



東予
イベント

東予さんばフェスタ2019 in 西条

2019.3.17 場所：西条市地域創生センター

今年でついに10回目となる東予さんばフェスタ！赤ちゃん抱っこ講座や骨盤メンテナンスなど大盛況でした。

さんばフェスタで、はじめて実施した妊婦さんのお腹にアートを描くマタニティメヘンディも好評でした！



東予ひめじょ広場 「ふわふわ」開催してます

昨年1月1回、西条市丹原公民館で妊娠・子育て相談を開催しています。今年は「もしもの時の応急手当」や、「わらべうたベビーマッサージ」なども開催しました。

開催日はひめじょHP・ふわふわFacebookをご覧ください。



●誌面の都合上、掲載できませんでしたが、このほかにも、みんなの生活展、良い子を産み育てる妊婦の日、南予さんばフェスタ(宇和島)などのイベントが開催されました。

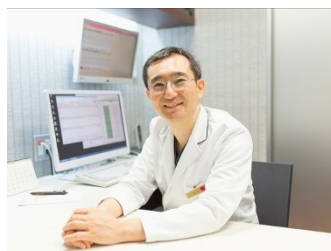
お産場
探訪無痛分娩・不妊治療で
専門性の高い医療を

つばきウイメンズクリニック：松山市

今回のお産場探訪では、松山市にあるつばきウイメンズクリニックをご紹介します。鍋田院長、相原病棟主任に取材に応じていただきました。2015年の開院以来、急激に分娩件数を伸ばしている大人気のクリニック。信頼できる最先端の医療と上質であたたかいホスピタリティには、たくさんの魅力がありました。今回の取材を通して、その人気の理由に心から納得の広報委員でした。それでは、ご覧ください！（取材 広報委員：宇都宮美加）



●取材させていただいた方



●院長 鍋田基生 先生

取材時、院長自らスライドを使ってクリニックの紹介をしてくださいました。「患者さんから学ぶ姿勢を大切に、新しい命の誕生にたずさわることに對しての感性を常に意識することが大切」と話す院長。熱意と細部に渡るこだわりに脱帽です！！

●つばきウイメンズクリニック

*開院 2015年10月
*年間分娩件数 573件（2018年）
*スタッフ 総勢82名
（医師・助産師・看護師・検査技師他）
*分娩室：LDR2室＋手術室
入院室：個室15室、4人部屋1室
※数字は2019年2月取材時のもの



●助産師 相原美紀 病棟主任

Q：つばきウイメンズクリニックでのやりがいとは？

学びが多いことです。自然分娩もできるし、つばきウイメンズクリニックに来てから、無痛分娩も不妊治療のことも勉強できました。患者さんが多いからいろいろな人と知り合えることもやりがいです。

また、新人助産師には、「いつまでも患者さんに感謝の気持ちを忘れない助産師に育ってほしい」とお話させていただきました。

◆地域に根差した専門性の高い
「かかりつけ産婦人科」

つばきウイメンズクリニックといえば、不妊治療や無痛分娩を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか？人気の理由1つ目は、それらの専門性の高い医療が受けられることです。

不妊治療は、最新の医療設備を整え、人工授精は年間約1000件、体外受精は約600件行っているそうです。卵管鏡や腹腔鏡の手術、さらに月に1度男性不妊外来も開設されていて、年間15件ほど男性不妊の手術も院内で行っているとのこと。助産師も不妊治療に関するスキルを身に付けられるようです。

無痛分娩は、年間分娩件数約600件のうち10～20%で、現在は経産婦のみに行っているとのこと。硬膜外麻酔を使い、朝9時にアトニン点滴開始、早ければお昼、遅くとも17時までにはお産になるそうです。産婦が感じる痛みは10段階で2くらいで、痛みを感じなかった産婦や排臨まで眠っている産婦さんもいるのだ

とか。余計な力が抜けることは、お産の進行にとっても大切なんだと改めて思いました。無痛分娩介助の経験がない私は難しそうだなと思いますが、相原主任は「無痛分娩のときは、お母さんはいきみを止めることもできるから、焦らず落ち着いて努責の誘導ができますよ。」とおっしゃっていました。無痛分娩を体験したお母さんたちのバースレビューには、「産むまで不安でしたが終わってみると体力も残っているし、疲労感も少ないので本当に満足しています。無痛分娩最高でした。」や「痛みはそんなにないのに、すぐ不安になってしまい、その度に助産師さん達が

声かけしてくれてすごく心強かったです」と書かれていました。痛みが少ないだけでなく、助産師の温かいケアが産婦の満足度を高めているのだなと感じました。

◆徹底したリスク管理で

安全を保障する仕組み

そして、徹底したリスク管理にも驚きました。医師は産科医、麻酔科医、新生児科医が常駐していて、帝王切開は全例、新生児科の医師が立ち会うそうです。

さらに驚いたことは、日本周産期・新生児医学会のNCPR講習会を院内で開催していて、助産師や看護師だけでなく医療職でないメディカルアシスタントスタッフまでAコースを取得していることです。全員で赤ちゃんを救うという意気込みに感動しました。J-CIMELS(日本母体救命システム普及協議会)の講習会も病棟のスタッフはほぼ全員受講しているそうです。

●あたたかな雰囲気のあるLDR



他にも、周産期に精通した教授による外来を週に2回設けていることや、独自のリスク評価票を用いてハイリスク妊婦を高次病院へ紹介して



●週2回外来を担当する草薙医師
(愛媛県立医療技術大学教授)

いること、日本超音波学会による胎児超音波の認定を受けている臨床検査技師が4名いることなど、最先端の医療の裏に患者さんの安全を保障する仕組みとスタッフの皆様の努力があるのだとわかりました。

そんなクリニックを支えるスタッフは…なんと総勢82名！クリニックでは全国的に有名な各分野の講師を招いて研修会が開催されており、最新の知識を学びながらそれぞれの専門性を活かした実践が積んでいけると思いました。開院してから3年間で論文発表3件、学会発表20件

以上という実績もクリニックの専門性の高さを裏付けています。



●スタッフの皆様

◆上質なホスピタリティによる 「心地よい診療」

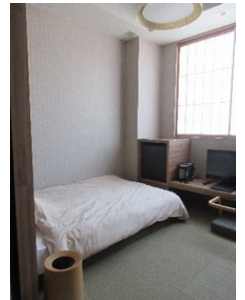
人気の理由2つ目は、上質なホスピタリティ。まず目に入るのはセンスの良い建物、そしてホテルのような待合室でした。受付のスタッフの方の笑顔にも安心します。女性は気になるトイレの綺麗さや、樹木を植える位置まで窓から緑が見えるようにと計算されており、こだわりの感じます。心地の良い空間で、診察や



健診を受けられることは嬉しいですね。病棟も清潔で洗練された印象を受けました。思わず「素敵～！」と言ってしまふほどです。

入院中の食事もととてもおいしそうでした。なんと調理師4人が腕を振るうオーベルジュクリニックなのです！コンセプトは「毎日お祝い膳」とのこと、おいしい食事にお母さんたちも毎日わくわくするのではないのでしょうか。

そして、妊活中から産前産後、育児中のお母さんのサポートも充実しています。つばきclubでは、マタニティヨガやベビーマッサージなどの様々なクラスが用意されています。妊娠中や退院後もお母さんたちが安心して楽しめる素晴らしい取り組みだと思いました。さらに、事業所内託児所「エルパティオ保育園」



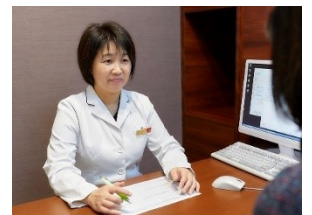
●和室の入院室もあります

もあります。患者さんなら、2時間500円で託児ができる、痒い所に手が届くサービスです。スタッフも利用できるため、小さい子供がいる職員も働きやすい環境ですね。

スタッフの働き方改革にも力を入れている院長。スタッフの職場満足度も上質なホスピタリティの秘訣なのかもしれません。

●不妊カウンセラー・助産師 崎山貴代さん(愛媛大学 母性看護学教授)

2018年5月より、つばきウイメンズクリニックで不妊カウンセリングを担当している崎山さんにもインタビューしました。不妊カウンセリングは1組30分の予約制で、月に3件ほど相談があるそうです。不妊治療や治療後の妊産婦に関わることが増えてきた助産師にとっては、興味深い内容です！



「生殖看護」の研究に取り組まれてきた崎山さん。きっかけは、助産師としての臨床経験のなかで、不妊治療後の妊婦に出会うことが多く、不妊治療後の妊婦には特徴があるのではないかと、どうすればこの方たちの不安が軽くなるのかと思ったことだったそうです。不妊治療中の看護の実践について、学会のセミナーやクリニックでの研修などで勉強されてきました。三重県の不妊専門相談センターで不妊相談についてスーパーバイズをされていた経歴もお持ちです。現在は、愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻母性看護学の教授をされながら、週に1度、不妊に悩む女性やカップルのお話をきかれています。

◆不妊治療中の女性の意思決定を支える

Q：どのような内容の相談が多い？

治療方法のステップアップをどう考えたらいいのか、意思決定に迷っている方や、年齢が高くなり頭ではわかっているけど治療をやめられないという悩みを抱えている方が多いです。

Q：相談を受けるときに心がけていることは？

まずは話をよく聴くこと。その方のニーズが明確になっているのか、意思決定の葛藤中なのか、よく聴いてどういふことに助言が必要か見極めていきます。アドバイスはするけど、自分の価値観の押し付けにならないように、相手の反応をよく見るようにしています。 [次ページへ](#)

📍 崎山さん インタビューつづき

Q：不妊カウンセリングのやりがいとは？

相談後なかなか会って話せませんが、電子カルテを見ながら、治療がステップアップできていたり、妊娠したことがわかったり、その方の希望とアドバイスが合致していたことがわかったときにやりがいを感じます。

Q：不妊治療後の妊婦や不妊に悩むカップルへのケアに関わる助産師へアドバイスを！

不妊治療の経験を自分にとって肯定的なものにできている方は、親になる過程もスムーズに経過しているように思えます。不妊治療後の妊婦に関わるときは、不妊治

療の経験がその方にとってどういうものになっているか時間をかけて聴いていくことが大切です。妊娠初期には、流産で不妊治療に戻ったらどうしようと不安を持っている人が多いです。今の経過が順調であることをきちんと伝え、治療中の経験を妊娠中に役立てられそうか整理して、次のステップに進めるように支援することが必要です。

不妊治療後の妊娠は治療中のコーピングを引き継ぎます。治療中の女性の思いに寄り添い、適切なコーピングの獲得を支援することが、妊娠が叶えられた場合にも大切になってくると思います。

(インタビュー 広報委員：宇都宮美加)

春季 研修

「フィジカルアセスメントに基づいた助産ケア」

2018.5.19 講師：山本詩子先生（公益社団法人日本助産師会会長、山本助産院院長）

日本助産師会の会長でもある、山本詩子先生の講義は、たくさんの参加者の熱気に包まれた会になりました。先生は、助産師会が組織として成長し、進化して行くために、「助産師」の仕事や存在をブランディングしていくことが必要と考え、会員を増やし、各部会が協力して連携を取ること、助産業務のガイドラインを作ることで、各助産所の連携体制を作ることなど、様々な事に尽力されています。愛媛県の助産師会の会員率は約65%と、全国でも一番会員数が多いそうです。素晴らしいですね。



● 詩子先生の不正軸進入のなおい方伝授

後半は、助産師の役割について、分娩時のフィジカルアセスメントを用いてお話していただきました。長年の経験からの技を、イラストを使って具体的に説明していただき、目から鱗の方が多かったのではないかと思います。基本のケアを見直したり、慣習的なケアを変えてみることは難しいかもしれませんが、私たち助産師が、各施設で出来ることを考え、技を磨く事が大切なのだというメッセージから、日々精進し、母子にとってのより良いケアを目指すことが大切と感じました。

(広報委員 きら病院：山下 玲子)



共催講演 神事

母子と助産師の日 前ICM会長講演！

2019.3.8 場所：徳丸老人憩の家・高忍日賣神社

毎年、村松志保子助産師顕彰会とともに開催している母子と助産師の日。今年は、前ICM会長のフランシス先生を講師として、九州大学の谷口先生を通訳にお迎えして、世界の助産師の活動に触れる機会となりました。

「助産師」は世界共通の職業ですが、その活動内容や職業の確立状況など様々な違いがある中で、改めて日本を見直すことができました。フランシス先生が会長になる以前、イギリスの地域の助産師として活動された経験の中で大切にされていたことについて「hear～よく聴くこと～」と答えてくださりました。そして先生が身につけられているトラウベ柄



● トラウベ柄のスクーフ！

のスクーフを見せて下さいました。そして、ひめじょ広報委員として、トラウベのイラスト

のひめじょTシャツのロゴマークを自慢！？させていただきました。世界中で大切にされる助産師のケアの本質は同じであることを参加者の皆で共有できる時間になりました。(広報委員：今村)



蘇生
研修

「新生児蘇生法（NCPR）スキルアップコース」

2018. 7. 21 講師：近藤陽一先生 赤羽栄子先生（松山赤十字病院）

松山赤十字病院にて、新生児蘇生法（NCPR）スキルアップコース（Sコース）の研修が開催されました。このコースは、新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）や「一次」コース（Bコース）の修了認定者のスキルアップや、認定の更新を行うためのコースです。

まずは松山赤十字病院小児科部長（新生児蘇生法インストラクター）の近藤陽一先生の講義により知識の再確認を行いました。その後、3グループに分かれて松山赤十字病院の新生児集中ケア認定看護師（新生児蘇生法インストラクター）である赤羽栄子先生をはじめとするファシリテーターの先生方にご指導をいただき

ながら、手技演習とシナリオ演習を行いました。

グループメンバーは多くが初対面でしたが、日ごろの実践場面を思い起こしながら、互いに協力して学び合いました。実際に声を出し、体を動かしてシミュレーションを行うことで知識が生きた学びとなり、日頃のトレーニングの大切さを再認識することができました。

（人間環境大学：永山 真弓）

南予
研修

「オキシトシン」～お産 子育てホルモンと助産ケア～

2018. 8. 26 講師：今村 朋子 先生（愛媛県立医療技術大学 助産学専攻科）

「幸せホルモン」として最近耳にするオキシトシン。私達の仕事には縁の深いホルモンです。「オキシトシン」とは何か、これまでの先生の活動を紹介していただきながら知識を深めていくことができました。

日々の勤務の中で「外因性オキシトシン（陣痛促進のオキシトシン製剤のこと）」の使用方法についての葛藤がありましたが、では、それをできるだけ使用しないような援助が自分ではできていたのかと思い返したときに、反省すべき点があったと感じました。今後は「内因性オキシトシン」を高め

るためのきめ細かな援助ができるようにしていきたいと思いました。

講義の後半に紹介していただいた「外診・内診一体モデル」は興味深い教材で、今後の開発が待ち遠しいものでした。オキシトシン＝愛のホルモン。産婦の産む力を引き出すことができる援助として、まずは「手」の力を大切に、触れることから始めたいと思います。

（長野産婦人科：松下千恵）

♥お互いに触れて内因性のオキシトシンを出すワーク
さすが！ベテラン助産師の癒しの手 🤲



●開発中の内診モデルを皆さんが触れて確認してくれました。

東予
研修

「母乳の生化学と薬」

2019. 1. 13 講師：戸田 千 先生
（坂出市立病院 産婦人科部長、IBCLC）

今回の講師として、愛媛ではおなじみの戸田千先生をお迎えし、「母乳の生化学と薬」をテーマに、定員いっぱいの約60人もの助産師が学びました。

研修テーマが生化学と知って私は最初、身構えてしまいました。けれども、「酵素ジュースを飲むだけで効く…と信じていませんか？」「水素水に騙されていないですか？」と話が進み、徐々に戸田先生のお話に引き込まれていきました。私たちが日常耳にする身体に良さそうな話も、生化学の基礎―人体の消化・吸収から考えれば正しくないという事

実。母乳生成の仕組み、母親の食事による母乳への影響についても、私たちの母乳育児支援の根拠となるお話でした。

また、「母乳とくすり」で紹介された情報について、研修後に私も実際に利用してみました。医療者だけでなく一般の方々が利用しやすく、お母さん自身が確かな情報を得る手段としてすぐに紹介することができました。

生化学を苦手とする私には少し難しい（私だけでしょうか…？）ところもありましたが、戸田先生の研修は本当に楽しく、あっという間に終



わってしまい、まだまだお話を聞きたいという思いです。

母親が確かな情報を元に自分自身で選択し、安心して授乳を続けられるように、今後も助産師として支援していきたいと思いました。

（いのうえ産婦人科・
しまなみ助産院：前山 優子）

●誌面の都合上、掲載できませんでしたが、このほかに《お産学習グループ企画》として「フリースタイル分娩～実践編～」がまつやま助産院で開催され、10人という少人数で実践を深めあうワークで助産院と病院の助産師がお互いに交流を深めました。今回あっという間に定員になったので、今後も同様の企画を続けていきたいと思っています。（お産グループ：今村）

NEWS

●ひめじょ全国総会・学会 実行委員会 始動！

テーマ「助産の原点～愛顔つなぐ助産師～」

2020年 5月 28日(木)・29日(金)・30日(土)

会場：愛媛県 県民文化会館

いよいよ全国総会 in 愛媛まであと1年に迫ってきました。栃木・愛媛・沖縄の後は総会の全国ツアー形式が終了し、東京での開催となります。山本会長の言葉をお借りすると、「愛媛はラスト沖縄の前年の**イブ♥**なのよ！」ということで、力が入ります。

この実行委員会は、井伊会長統括のもと、総会の実行委員長は、ひめじょ編集委員長のわたくし今村が務め、そして、学会の実行委員長は、今回の取材でも登場した崎山さんが務めることになりました。さらに、事務局や各担当者など実行委員として集まった13名のメンバーで会議を重ねています。

助産師の神様が見守ってくださる、ここ愛媛で、テーマの「助産の原点」を深く見つめ、そして愛顔をつなぐために私たち助産師に何ができるのかを考えられるような、総会・学会にしたいと思います。

愛媛らしい企画をたくさん盛り込んで、全国から、たくさんの人に来ていただきたいですね。

愛媛助産師会の会員の皆様！この3日間はこれから日程をあけていただき、ぜひともご参加ください。

そして、ぜひボランティアとして、一緒に運営をお手伝いくださるとありがたいです。お声をかけさせていただきます。



2020年度 公益社団法人 日本助産師会 通常総会
日本助産師学会 第76回

テーマ 助産の原点 ～愛顔つなぐ助産師～

日程 2020年 5月28日(木)・29日(金)・30日(土)

開催地 愛媛県松山市
会場 愛媛県 県民文化会館

主催 公益社団法人 日本助産師会
後援 愛媛県助産師会

5月28日(木) 開会式・総会開会式・総会閉会式
5月29日(金) 総会開会式・総会閉会式
5月30日(土) 総会開会式・総会閉会式

いた時には、どうぞよろしくお願いします！（総会実行委員長：今村朋子）

●ウェルカム ひめじょコーナー●

ひめじょへようこそ！ひめつう13号掲載以降に新規入会や他支部より転入された会員の皆さまを紹介します。

- ◆中予地区（10名） 古田美幸、谷岡亜緒伊、武田千秋、波頭悠里、武智由佳、岡田更加、中平有香、薮内佑衣、山崎詩月、勝村しおり
 - ◆東予地区（3名） 伊藤恵、荒川優花、新良美紗都
 - ◆南予地区（1名） 兵頭都
- *敬称略：H30年度4月以降の転入／入会者から、H31年4月1日現在で手続き中の方まで掲載。
施設名などは、総会要綱の名簿にてご確認ください。

●新入会員の皆様 & アドレスが変わった会員の皆様へ ～ひめじょメール登録のお願い～

愛媛助産師会では、**会員専用のひめじょお知らせメール**を運営しています。研修情報を事前に配信しますので、登録しておけば研修の申し込みもラクラク！災害時の安否確認システムとしても重要なツールになりますので登録にご協力ください。

ひめじょーおしらせ

●登録方法 himejyo-oshrase@mamail.jp にカラメールを送信してください。

*右のQRコードを携帯で読み取ると面倒なアドレス入力が必要です。

*必ずいつもご覧になるアドレスを登録してください。

●携帯の迷惑メール防止機能による削除が多くなっています！

【@mamail.jp】が受信できるよう**再設定**のうえ登録をお願いします！

*設定を簡単に行うには、携帯からコチラにアクセス！→<http://www.mamail.jp/ds/>

●登録がうまくいかない場合は… 事務局 ehime@himejyo.jp にご連絡ください。

入会用のQRコードです。
これで簡単に登録してネ！
すでに登録済の人も、
自分の登録状況が
確認できますヨ！



★ 新入会手続きのご案内

(社)日本助産師会への入会をご希望の方は、以下のいずれかの方法で愛媛助産師会を通じて手続きをなさってください。

- ①研修会の時などに書類と会費を持参する
- ②書類郵送／会費を振り込む(右の連絡先へ)
- ③愛媛助産師会理事に直接渡す

*入会金について：入会手続きを希望される方は、初年度のみ入会金1万円を含む30,000円が必要です。次年度からは年会費20,000円が自動引き落としになります。(学生の賛助会員から正会員に移行の方は、入会金は不要です)

(一社)愛媛助産師会 事務局 連絡先

- 住所：〒790-0804 愛媛県松山市中一万町2-1
愛媛県助産師会立まつやま助産院内
- TEL/FAX：089-945-6757
- Email：ehime@himejyo.jp
- 振込先：ゆうちょ銀行 16140-2281641
(口座名義) 日本助産婦会愛媛県支部

★ 編集後記

平成の時代が幕を閉じ、この「ひめつう14号」は、令和元年の発行となりました。ついに令和ベビーちゃんの誕生ですね！その場面にはきっと、助産師のみなさまが側で寄り添っていることと思います。時代が変わり、社会が大きく変化したとしても、人が人を産み、育て、新しい命をつないでいくという生命の営みは変わりません。私たち助産師は、新しい変化を取り入れつつ、守るべきことは大切に受け継いでいくことで、令和の時代も母子・女性の味方でいられるようにと願っています。広報委員一同、心を新たに、ひめじょ会員の皆様に少しでもお役にたてるような情報をお伝えしていきたいと思っています。(編集長 いまむら)

